



三洲土木株式会社

未来へ継ぐもの。

Leaving something for future generations.



三洲土木株式会社

〒470-0162

愛知県愛知郡東郷町大字春木字新池3922-66

TEL 0561-38-6166

FAX 0561-38-6168

<http://www.sanshoo.co.jp>

E-mail:[sanshoo@sanshoo.co.jp](mailto:sanshoo@sanshoo.co.jp)

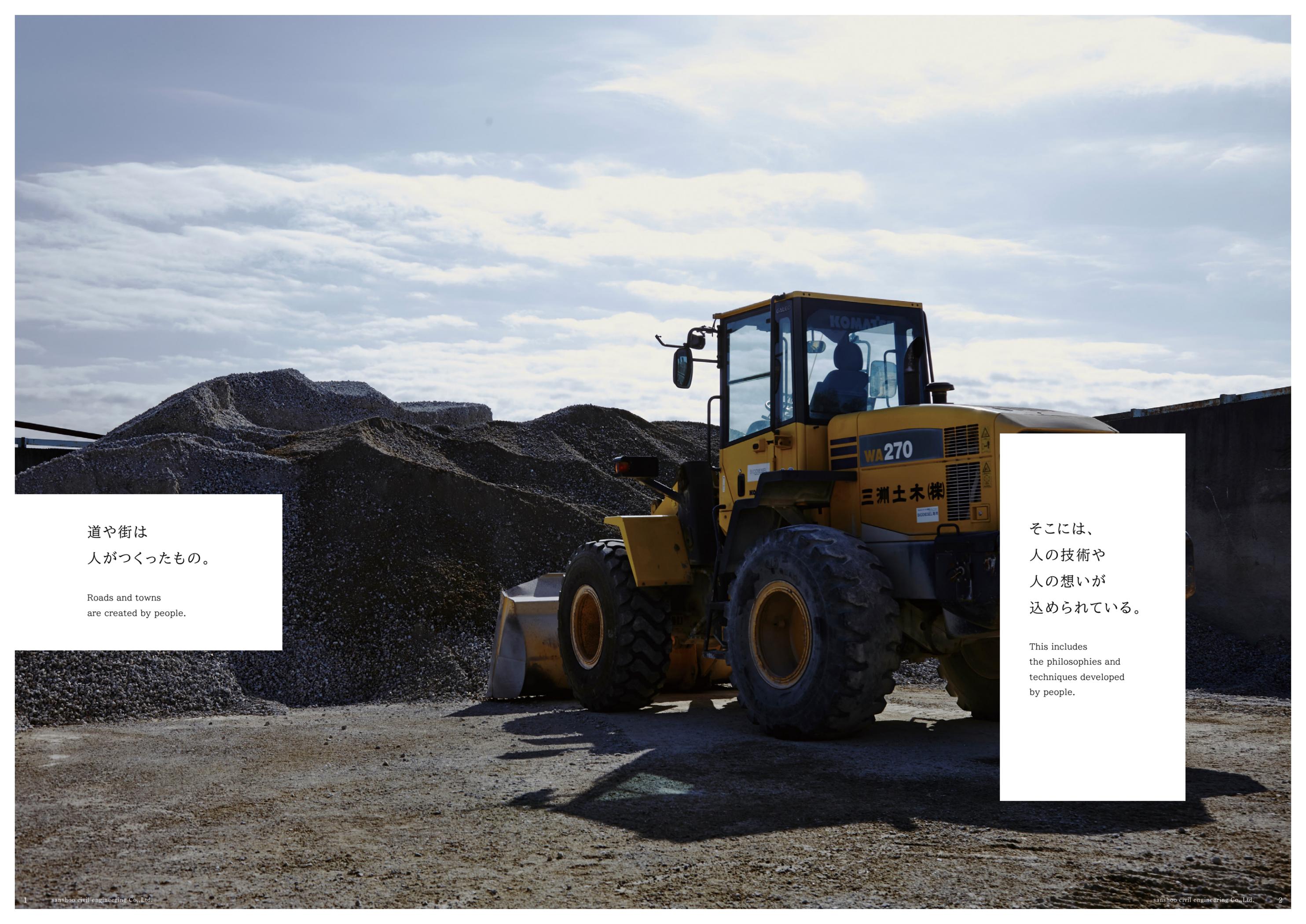
facebook:<http://www.facebook.com/sanshoo55>

sanshoo civil engineering Co.,Ltd.

3922-66 Arai-ke Haruki Togo-cho, Aichi, JAPAN 470-0162

TEL +81-561-38-6166

FAX +81-561-38-6168



道や街は  
人がつくったもの。

Roads and towns  
are created by people.

そこには、  
人の技術や  
人の想いが  
込められている。

This includes  
the philosophies and  
techniques developed  
by people.



そんな技術を、想いを、  
私たちは継承していきたい。

We want to leave these philosophies  
and techniques for future generations.

明日を生きる  
こどもたちに、  
より良く生きる  
ステージを残すために。

This will build an environment,  
where our children's  
children may live prosperously.



私たちの名前は、未来に  
残らないかもしれない。  
しかし、私たちの仕事は  
確実に未来に残っていく。

Our names may  
not be remembered  
but our works  
will surely remain.

## 未来へ継ぐもの。

私たちは今、過去から引き継がれた遺産を受け取って生きている。そう思うことが、よくあります。今朝、歩いた道。途中、川に架けられた橋。そして今、自分がいる場所だって。そう、私たちは先人がこの世界を少しでもよくしようと手かけ、遺してきたものに囲まれて、生きています。それは遡れば、人類史が始まって以来、気の遠くなるような時間のなかで受け継がれてきたもの。時代の移り変わりとともに、建造物は目まぐるしく変わる。しかし、その変化をじっと支えてきた土台は変わることなく、厳然とそこにありつづけてきました。私たちの手がける土木工事は、その土台をつくるためのもの。私たちが今、先人の知恵と汗の結晶を享受して生きているように、私たちもまた、まだ見ぬ未来の人へと引き継いでいく、「何か」をつくっているのです。形として残るもの。形としては残らないもの。そこに生きる人たちの技術によって形づくられたものと共に、そこに込められた真心がずっとつづくように。どこまでも連続とつながっていくように。そんな想いを胸に、私たちは今日も現場に立っています。

## 三洲土木の強み

### Strong points

### 次の50年を照らす、 50年を超える歴史

Our 50 year history will cast  
a light on the next 50 years.

1958年の創業以来、50年以上の間、土木工事を手がけてきたこと。何よりもまず、それが三洲土木の強みです。しかし、ただ長く続けてきたことを誇っているわけではありません。オイルショックやリーマンショックなど幾度となく遭遇した危機を乗り越えてきたこと。また、様々な失敗を通じて多くのことを学んできたこと。それが、私たちの財産となっています。たとえば、設備投資だけに傾倒することなく人を育てる大切さも、歴史から学んだ教訓のひとつ。また、売上が落ち込んだときにこそ新しいことに挑戦するというのも、歴史から学んだ経験則です。私たちの歩みもまた、次世代の社員たちの道しるべとなる。その自覚に立ち、次の50年に向けて新しい歴史を刻んでいきます。



### 安心を提供する、 マルチな人材の育成

Developing our versatility and talents  
can help our customers feel secure.

どんなに最新の重機があっても、それを操る人がいなければ、私たちの仕事はできません。土木工事の成否を決めるのは、一人ひとりの意識やスキル次第である。その認識のもと、人材育成に力を注いでいます。当社の新人教育は入社前から始まります。計7回に亘る社内研修を通して、社会の仕組みから私たちが考えていること、そして新人たちに望んでいることまで、一つずつ噛み砕いて伝えることから始めるのです。すべては、私たちの使命である「安心の提供」のため。お客様から「最初の作業が三洲土木だと、その後の現場の進行がスムーズ」という声をいただけるのも、そんな人材育成を評価していただいた証だと自負しています。

### 現場で差がつく、 2つの視点

Taking two different ways to look at things  
makes a huge difference at construction sites.

「安心の提供」のために、なんでもできるように。その考え方は、人材に限ったことではありません。それは、会社としても同じことです。下請けしかできません、元請けしかできませんと言うのではなく。私たちは「手を汚すこともできるし、仕切ることでもできる」という言い方をしていますが、現場作業の最前線を担うことできれば、監督の立場でプロジェクトそのものをマネジメントすることもできるということです。そして、下請けも元請けもできるということは、監督のようにプロジェクト全体を俯瞰しながら現場の作業にあたることもできれば、現場の視点に立ち、効率よく動きやすいように段取りを組むこともできるということです。いずれの仕事もバランスよく手がけ両方の視点をさらに磨くことで、相乗効果を発揮できると考えています。



### ジャパングオリティを、 世界へ届ける

We are making efforts to spread  
Japanese quality throughout the world.

日本はたくさんの地震や災害の脅威に曝されてきた国です。しかし、災害に遭うたび、日本は独自の土木技術を進化させてきました。その盤石な土台をつくる技術は、世界的にも高いレベルにあると言われていました。そんな技術を少しでも世界へ伝えていきたい。その思いから、海外からの研修生の受け入れを開始しました。ただの労働力としてではなく、3年間の勤務で日本語を学び、技術を習得し、母国へ帰ってもらおう。言わば学校のような位置づけで力になりたいと思っています。研修生の受け入れだけでなく、海外での開発支援プロジェクトも進行中。土木技術はもちろん、日本人の生真面目な国民性やおもてなしの文化まで伝えることで、日本と他の国々に橋を架けていきます。

# 事業紹介

Our business

廃材も、建設汚泥も、  
汚染土壌も。  
土木工事に関連することは、  
おまかせください。

お客様のご要望にワンストップでお応えします。  
三洲土木は土木工事だけ、じゃない。  
守備範囲の広さには定評があります。

## 地盤改良事業

Ground improvement business

### ■ハイスピード工法

「ガイアの夜明け」で  
取り上げられた工法です。

住宅向け地盤改良工法である「ハイスピード工法」。地震に強く、東日本大震災での液状化現象による被害を最小限に抑えたことで世の注目を集めました。2011年11月にはテレビ番組「ガイアの夜明け」に取り上げられたことで、全国のお客様にその名を知られるようになりました。おかげさまで法人様だけでなく個人のお客様からもお問い合わせいただくまでに。宅地造成工事とセットでご依頼いただくケースが増えています。



## リサイクル事業

Recycle business

- 汚染土壌
- 汚染汚泥
- 建設汚泥

エコなんて言葉がなかった  
時代から、ずっと。

私たちがコンクリートの廃材のリサイクルを始めたのは、1989年のこと。エコなんて言葉が、まだ世の中になかった時代です。その後、建設汚泥や汚染土壌、土そのもののリサイクルにも事業を拡大。名古屋駅前の再開発で発生した建設汚泥の一部も、私たちがお手伝いしました。限りある資源を有効活用し次世代につなげるため、これからも積極的にリサイクル業を進めてまいります。

- 廃材のリサイクル
- 土のリサイクル

「土」そのものも  
リサイクルします。

「土」は、ときには生き物のようです。普段は私たちの生活を万全に支えているはずなのに、大地震の時には「液状化」したりします。普段の工事でも、掘削した土をそのまま再利用できることは、実はほとんどありません。私たちが土のリサイクルに取り組み始めたのは1999年から。時には、移動式土質改良機の強みを活かし、そのまま現場で。時には、「愛知池改良土センター」で。この地域のパイオニアとして、この分野をひとつずつ開拓してきました。



## 土木事業

Earth works

- 大型工事
- 公共工事
- 宅地造成工事

半世紀以上つづく、  
三洲土木のコア事業。

当社の創業は1958年。日本の高度経済成長と共に現在も主力事業である土木事業に取り組んできました。道路や河川などの大型工事のほか、下水道や側溝など地域の公共工事の実績も多数。擁壁やブロックなど住宅に関する工事も手がけてきました。また、創業当時から台風災害の復旧に尽力するなど、災害復旧工事もインフラを整備する者の使命として位置づけ取り組んでいます。いずれの工事も、次世代の暮らしを長きに渡り支えるもの。その自覚に立ち、万全を期しています。



## 不動産事業

Real estate business

### ■不動産物件の紹介

不動産獲得から携わることで、  
より深い「安心」を。

宅地建物取引士の資格を持つ社員が複数名在籍しています。「安心の提供」が私たちの使命。土木工事や地盤改良を通じての提供に加えて、私たち自身の目で、足で収集してきた不動産情報のなかから確かな物件をご紹介しますことで、より深い「安心」をご提供していきます。



## 海外支援事業

Overseas support business

- 海外研修生受け入れ
- 海外技術支援

海外研修生の受け入れや、  
開発支援も。

ベトナムなど海外からの研修生を受け入れ、タブレットなどを活用しコミュニケーションを取りながら、日本語教育のほか土木技術の継承を行っています。日本が世界に誇る土木技術を、少しずつ世界へ広めていきます。また、新興国でのインフラ整備などへの技術支援も進行中です。



## 社員の想い

Staff comments



工事部  
山田 凌

2015年入社

そこに暮らす人に想いを馳せるたび、  
責任感で気持ちが引き締まります。

土木業を選んだのは、何を建てるにしても、何よりも基礎が大切だから。住宅であれば、住む人に。施設であれば、利用する人に、想いを馳せる。そうすれば、今自分が取り組んでいる目の前の仕事が、いかに大きな責任を伴うものなのかを再認識することができます。その思いに立てば、盤石な地盤をつくるのはもちろんのこと、工事中的事故も絶対に起こさないという固い決意をもって臨めるはず。とはいえ、仕事は一人ではできません。今はまだ経験が浅く自分の仕事をやりきること精いっぱいですが、いずれ尊敬する先輩のように、自身の作業は誰よりも高い精度でこなしながら、広い視野を持って現場の隅々にまで目を配れるような人になっていきたいです。



工事部  
神谷 知廣

2014年入社

プロとしての仕事はもちろん、  
人としてのモラルも伝えていきたい。

工事を滞りなく、安全第一で、納期までに終わらせる。それは、プロとしては当然のこと。私としてはそれに加えて、工事そのもののクオリティ以上に、心がけていることがあります。それは、現場でのモラルのこと。あいさつをする。近隣への音や粉塵に配慮する。整理整頓や美化を心がけるなど、一作業員としてではなく、一人の人として。一つひとつは小さなことかもしれませんが、積み重なれば大きな差になる。私はそう考えています。若手に対して、仕事の段取りや技術だけでなく、そんな人としてのモラルまで伝えていければと思っています。



企画戦略室  
キャプテン  
新名 伊津子

2012年入社

土木の仕事は子どもたちの未来につながっている。  
母として、その責任を感じながら働いています。

出産を経験してから、仕事の意義を改めて感じるようになりました。土木の仕事は、未来を生きる子どもたちにつながっている。そのことに気づいてからは、仕事に取り組む意識が変わりました。直接現場に出て作業することはありませんが、企画戦略室の一員としての社員をサポートすることが私の仕事です。現場で撮影する写真、営業に渡す資料の一つひとつが、子どもたちの未来のためになる。そんな気持ちで取り組むようになりました。また、今後増えてくるであろう子育てをしながら働く女性のために、働きやすい環境を整えることも私の役割。母としての先輩でもある企画戦略室の室長が、私を心身ともに支えてくれたように、これから入ってくる後輩たちの支えに、私もなってあげたいですね。



部長  
山口 豊満

1985年入社

協力会社のことまで考えて段取りを組む理由？  
いいものを納めたいから。それだけです。

「三洲が入った現場、特に山口さんが入った現場は、すぐにわかる」ありがたいことに、お客様からはそう言っていただけます。自分たちの工事のあとに入る鉄筋屋さんや石屋さんなど、他の協力会社さんのために段取りをつけておくからだと思います。トラックが入りやすいように広めに整地しておいたり、材料を置けるスペースを確保しておいたり。なぜ、そこまでするのかとよく聞かれるけど、理由はカンタン。お客様にいいものをつくって納めたいから。それだけです。今はそれを若い人たちに伝えていこう。ただ方法論を説くのではなく、「なぜ、そうするのか」という根っこの部分を伝えることで自分の頭で考え、モノにしていってほしいですね。

## 未来へ継ぐもの。

Leaving something  
for future generations.

土木は、私たちが未来に継ぐべきものである。古より今日まで、先人たちは夢を追いつけてきた。未来を思い描き、周りの人たちの安心安全を実現するために力を合わせ、技術を磨いてきた。こうして道なき道を切り拓き、街を造りあげてきた。満足な道具や機械など存在しなかった頃から追いつめてきたものは、現代を生きる我々となんら違うものはないはずだ。そして、今度は私たちの番だと、そう強く思う。今日よりは少しでもマシな明日を次の世代に残すのは私たちの責務であると。

我々一人ひとりの力はとても小さい。悠久なる大自然の営みに比べれば、われらの存在などまるで芥子粒のようだ。そして、だからこそ、我々は畏怖の念を持たなければならない。だからこそ、我々は先人たちの歩みに思いを馳せなければならない。だからこそ、我々は次の世代へとこれらのことを伝えなければならない。未来を信じることの大切さを、若者たちに継承していかなければならない。我々は、失敗した数だけしか成長できない。これは古今東西変わらぬ真理である。であるからこそ、私たちはこれからも挑戦者であり続けます。その想いを次の世代へと受け継いでいくことができるよう、私たちはこれからも歩み続けてまいります。

代表取締役社長 金田 英治



sanshoo

style

## 宣言

まわりのひとたちを幸せにしたい

ひとひとのつながりを大切にしたい

未来の歴史に対する責任 大変だけどがんばる

あたらしいことに挑み続けたい

明るさと楽しさ、そして情熱は人生のスパイス

でも、いつも謙虚でありたい

わたしたちはなんのために働いているのだろう

わたしたちはなんのために生きているのだろう

わたしたちはいつでも明るい未来を信じている

運命は自分たちで変えられることを信じている

わたしたちは、いつもわたしたちでありつづけたい

わたしたちはそれができる

これが、sanshoo style

We want the people around us to be happy.

We want connections between people to be valued.

We are responsible for history in the future.

It is tough, but we will try our best.

We want to continue trying new things.

Passion, fullness of life and happiness are the spices of life.

But, we would like to stay modest.

What are we working for?

What are we living for?

We always believe in a shining future.

We believe that we can change our fate.

What we are.

We want to be true to what we are.

This we can do.

This is sanshoo style.